



平成30年度
東北大学大学院教育学研究科
震災子ども支援室 “S-チル”

年次報告書

震災子ども支援室は、ある個人の年1200万円10年間の寄附を原資とし、
その他多くの方々の寄附をいただいで活動しています。



東北大学大学院教育学研究科
震災子ども支援室 “S-チル”

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1
TEL&FAX : 022-795-3263
E-MAIL : s.children@sed.tohoku.ac.jp



平成30年度 年次報告書

目次

■ 概 要・スタッフ	01
■ 活動内容	
I. 当事者支援	
1. 相談実績	03
2. 親族里親サロン	08
3. 遺児・孤児対象学習支援	09
II. 支援者支援	
1. 研修	11
2. 関係機関との連絡会議	11
3. 心理士派遣事業	11
III. 普及・啓発	
1. 震災子ども支援室主催によるシンポジウム・講演会	13
2. 研修・講話・講演	13
IV. 情報収集とニーズの把握	
1. 関連自治体・団体への訪問	14
2. 支援室来室対応・情報交換	14
3. 講演会・研修会における情報収集	14
V. 調査・研究	
1. 学会発表	15
2. 震災こころの支援研究会(D研)の活動	15
3. 研究調査協力	15
VI. 広報	
1. 報道関係・来室対応	16
2. 出版物・報告書	16

平成30年度 「震災子ども支援室」活動報告

震災子ども支援室 室長 加藤 道代

● 概要

平成30年度は災害の年でした。1月から3月の記録的な大雪、4月の島根県西部地震、6月の大阪府北部地震、西日本を中心に全国的に広い範囲の被害を招いた平成30年7月豪雨、9月の北海道胆振東部地震、9月台風による暴風と水害、災害級と言われた猛暑も含め、日本が日常的に災害と隣り合わせであることを痛感させられる一年となりました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。

震災子ども支援室「S-チル」は、東日本大震災後から10年間の支援活動を行うことを目標に開室しました。開室当初、「子どもたちへの支援」「保護者への支援」「ニーズに基づく支援」を理念として掲げましたが、時間の経過の中で、子どもたちは成長し、保護者との関係も向き合う課題も変わってきました。被災地も復興にむけてその姿を変えていきます。支援ニーズは、場所によって、時間によって、個々によって異なること、さらに変化していくということ、私たちは常に実感しておかなければなりません。つまり、支援室の取り組みは一度始めれば単に繰り返していけばよいというものではなく、常に今現在のニーズに合っているのかを吟味しながら、柔軟に修正をしていく必要があります。震災子ども支援室が、淡々と変わらず繰り返し行っていく活動と、支援を必要とする方々とともに変化していく活動の両面を意識してきたのはこのためです。そして、終盤を迎えた支援室は、積み重ねてきた活動をまとめ、可視化する中で、震災子ども支援室をどう終えていくのか、終えた後に何を残すのかを考えることが必要となっています。

それでは、平成30年度の活動の中から具体的にご紹介いたします。

相談部門では、当事者相談活動（電話相談、来所相談）、陸前高田と石巻を会場に行われた遺児・孤児対象学習支援活動（しゅくだい塾）、里親サロン活動、講師派遣（於東北大学災害科学国際研究所、鹿折中学校、摂南大学他）、講演会開催など、これまでの活動はいずれも継続して実施することができました。これらは、時間がたってもなお、時間がたったからこそ、意味をもつことがあると感じています。また、今年度より開始した心理士派遣事業（南三陸町、七ヶ浜町、山元町）も順調に実施され、乳幼児健診や保育所・幼稚園への巡回発達相談を通じて、地域の子育てや保育のお手伝いすることができました。

研究部門では、開室以来の相談、スタッフの対応、震災後の里親をとりまく状況などをまとめた知見を、学会発表、論文および報告書により発表しました。学生を主体とする研究会（D研）は、これまで震災とメンタルヘルスに関する読書会や勉強会を行ってきた成果を、レビュー研究に展開し、東北心理学会で発表しました。同学会では、「東日本大震災を学ぶ—当事者・実践者・研究者の視点から—」と題した自主シンポジウムも開催しました。加えて今年度は、教育学研究科先端教育実践センターによる大学院生プロジェクト型研究費の援助を受け、「原発避難と青年期の対人関係」というテーマでチーム研究を展開しました。また、こうした活動を土台として、他大学で震災研究を行う大学院生、大学院卒業生を招き、研究交流会も行いました。若い世代の方々が、震災後のこころのケアについて学び、研究する姿を非常に頼もしく感じています。

もうひとつ、研究部門が取り組んだ新たな試みは、緊急派遣スクールカウンセラーのヒアリング調査です。震災後、被災地の学校に県外から派遣されたスクールカウンセラーの中には、ほぼ7年間にわたって継続的に同じ場所に同じスタッフで支援して下さった方々がおいでです。一方で、現地スクールカウンセラーもまた、同じ地で活動しました。外から入った支援者と、内に身を置いた支援者の目に、被災地はどのよう

に映っていたのかをお聴きしています。そこから見えてくる知見は、東日本大震災を経験した支援者が、今後、他の災害で被災した地に出向き、震災にまつわる経験を活かしていかなければならない時に、重要な示唆となるだろうと考えています。

3月末には、北海道胆振東部地震の被災地、厚真町から依頼を受け、対人援助職にあたる方々のメンタルヘルスケアのために訪問しました。冒頭に記したように、多くの災害が次々に起こる中、外から入る支援者として何が出来るのか、私たちが経験したことはどのように他の地域に役立ててもらえるのか、そのためには何が必要なのかなど、今後の震災子ども支援室の姿勢について考えさせられる出来事となりました。実は、厚真町訪問の前に不安だった私たちは、日頃大変お世話になっている南三陸町の保健師や保育士の皆さんにお話をうかがい、あらためて支援のあり方について多くを学ばせていただきました。それらの貴重な知識を糧に厚真町に向かったという経緯があります。震災子ども支援室は、支援者側ではあるのですが、いつもこんな風に周囲の力強い「支援」を頂いて仕事ができていることを、皆様にお伝えしたいと思います。

他にも、震災後7年を超えた里親のご様子についてまとめ、小冊子「この子を育てて」を作成しています。震災子ども支援室では、2014年に、震災後に里親となった時の心境を「この子を育てる」にまとめました。その後も家族として子育てを行う中で、措置解除を迎える方や、その時期が近づいてくる方がいらっしゃいます。以前の「この子を育てる」を踏まえ、その続編として、令和元年度に発刊の予定です。なお、小冊子のもとになる「震災里親家庭及び養育に関する調査報告書（速報版）」は既に完成し配布を行っています。ご関心のある方々は、支援室までどうぞお問い合わせください。

皆さまには、今後とも、震災子ども支援室へのご指導ご鞭撻を何卒よろしく願いいたします。

令和元年5月

● スタッフ

室長：加藤 道代（教育学研究科教育心理学講座 教授 臨床心理士）

研究員：一條 玲香（教育学研究科震災子ども支援室 特任助教 臨床心理士）

相談員：平井 美弥（臨床心理士・臨床発達心理士）

相談員：押野 晶子（保健師・看護師）

相談員：大堀 和子（社会福祉士・精神保健福祉士）



平成23年3月20日 石巻市中瀬公園



平成31年3月20日 石巻市中瀬公園

1 相談実績

相談活動には、本人・関係者相談をはじめ、支援者へのコンサルテーション、情報交換やケース会議といった他機関との連携が含まれる。

● 総相談回数、ケース数及び月別相談回数

総相談回数は162回であった。前年度(平成29年度168回)から横ばいであった。6月の新規相談が多かったこと、10月は特定の相談者からの相談が多かったことが6月、10月の月別相談回数が増加に影響したと考えられる。またチラシ配布後の1,2月にも相談の増加が見られた。

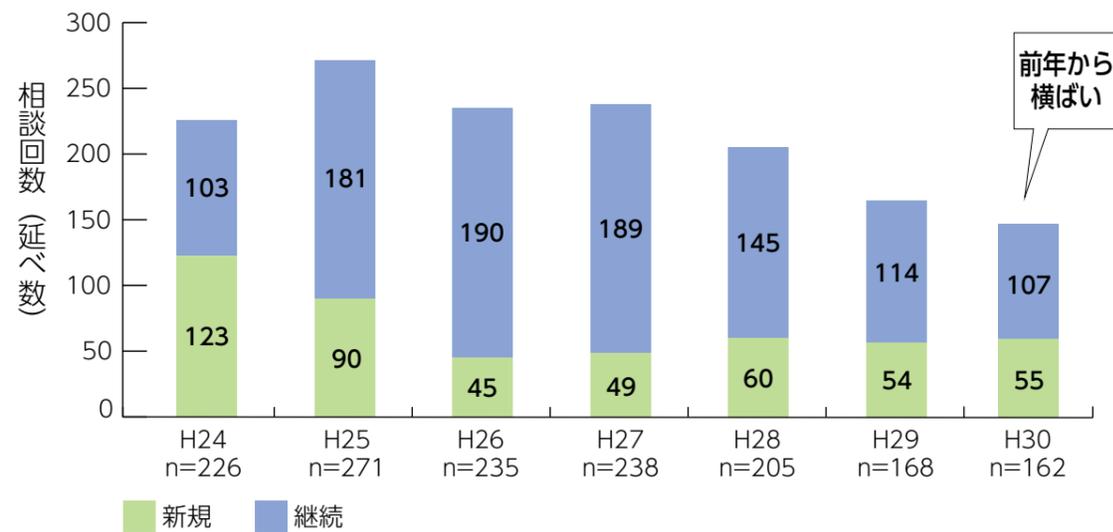


図1 総相談回数推移

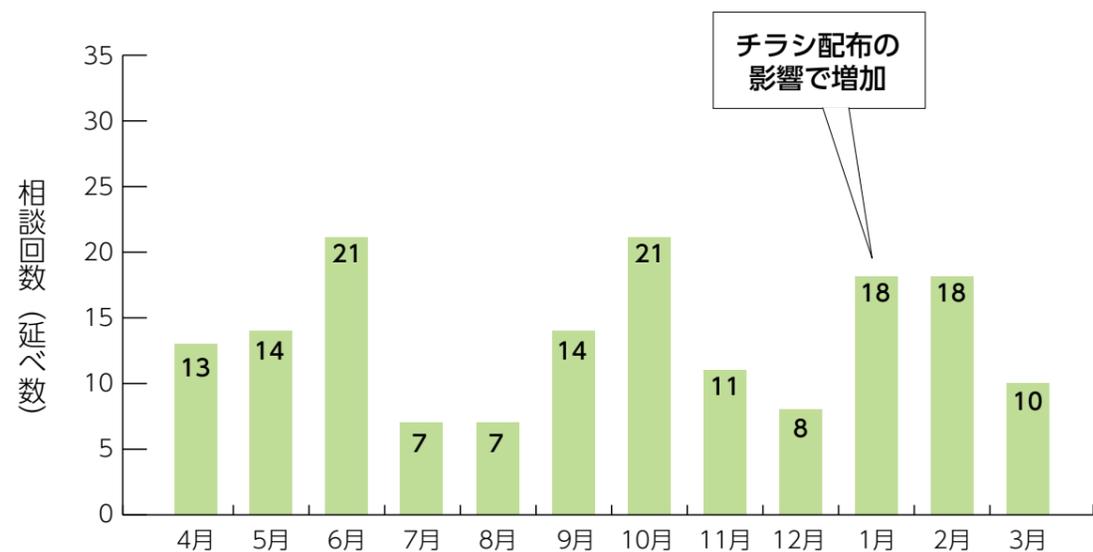


図2 月別相談回数

● 相談者地域

相談者を地域別にみると、「震災子ども支援室」が位置する宮城県からの相談が依然として圧倒的に多い。今年度は岩手からの相談割合が減少した。

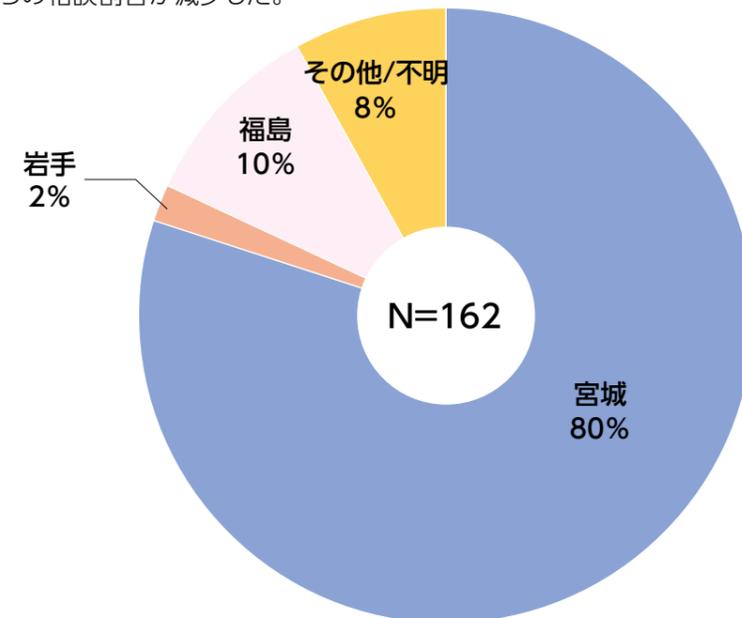


図3 相談者地域 (%)

● 相談形態

電話での相談が最も多い。メールでの相談が昨年度から増加し、今年度も一定数みられた。

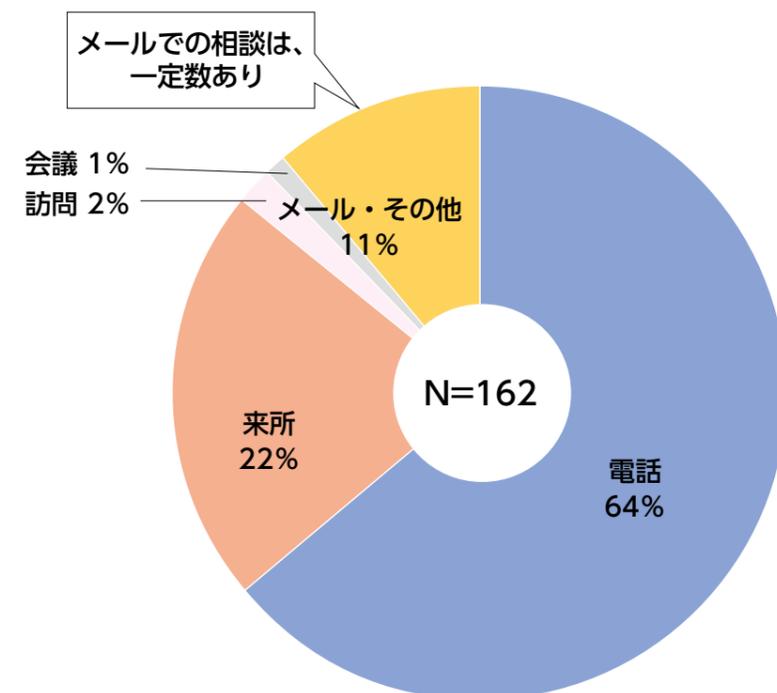


図4 相談形態 (%)

● 相談内容

相談内容(相談回数(延べ数))は、「学校関係」が前年度48回から35回に減少した。また前年度増加した「その他」に分類されるいたずらなどの件数が前年度42回から29回に減少した。

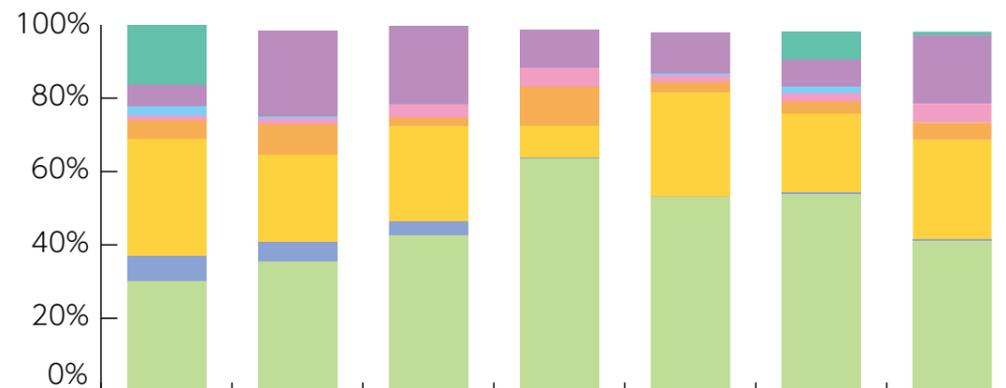
表1 相談内容別相談回数

	体調・精神不調	学校関係	子育て・発達	家庭環境	要保護・非行	その他	計
相談回数(延べ数)	52	35	29	11	6	29	162

「学校関係」、「その他」が減少

● 相談者推移

今年度は当事者からの相談割合が減少し、「行政・学校・関係機関」及び「母」からの相談割合が増加した。



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
その他・不明	37	4	1	3	4	12	2
行政・学校・関係機関	13	64	50	25	23	13	31
親族その他	6	1	0	0	1	3	0
里親	3	4	9	12	4	4	8
祖父母	11	23	5	26	6	6	8
母	72	64	61	20	58	37	44
父	16	15	9	1	0	1	1
本人	68	96	100	151	109	92	68

図5 相談者推移

● 本人相談

① 相談者の属性推移

平成30年度は、「児童・生徒」本人からの相談が減り、「有職」者からの相談が増えた。「有職」者からの相談の増加は、学校を卒業し、社会人になってからも継続的に相談する人がいたためと考えられる。

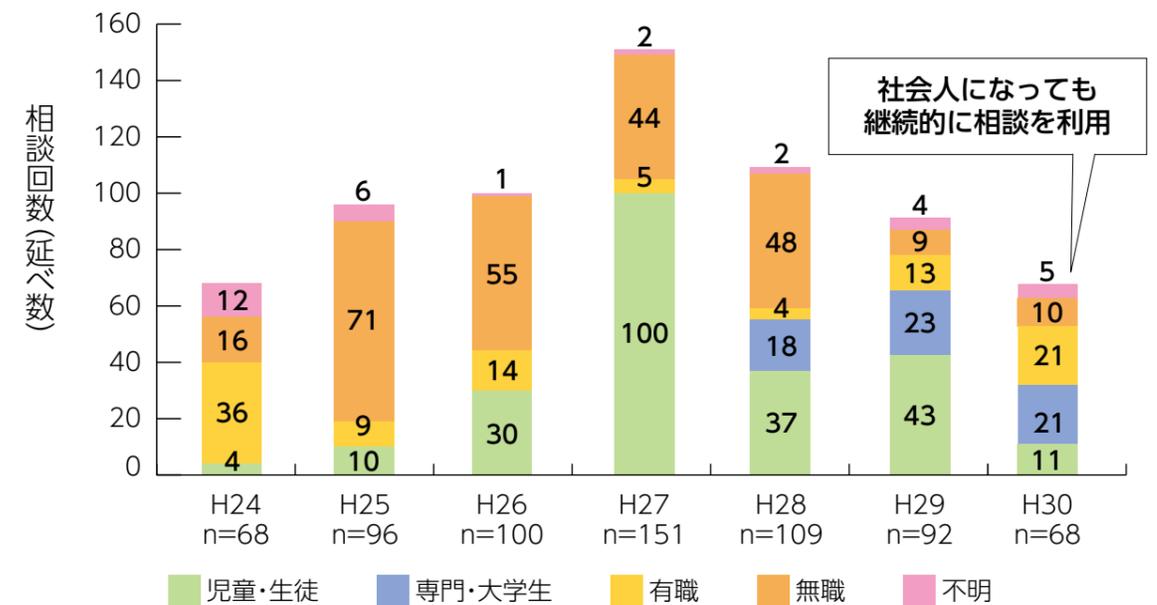


図6-1 本人相談属性推移

② 子ども(児童・生徒/専門・大学生)の相談内容詳細

「体調・精神不調」の相談が約半数を占めた。

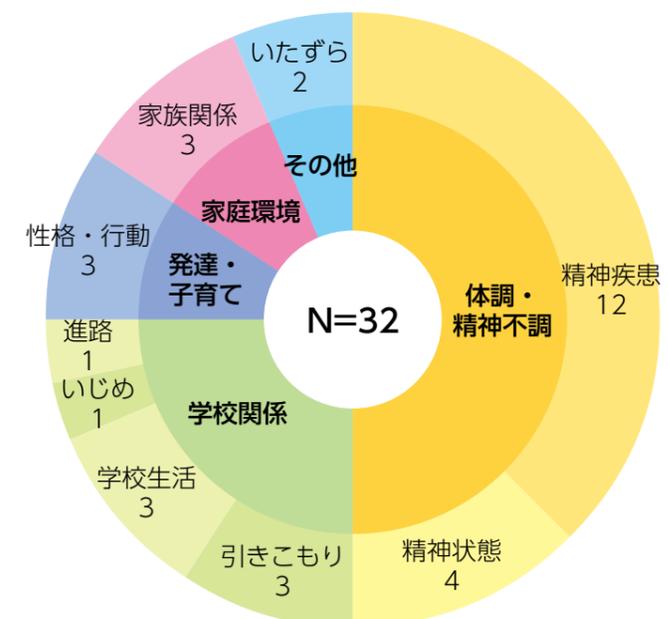


図6-2 子どもの相談内容大分類及び詳細(相談回数(延べ人数))

● 関係者（親族）相談

全体の相談回数は前年度の51回から61回に増加した。相談内容では「学校関係」が前年度6回から21回に増加した。対象者の性別は、「男」が多く、対象者の属性では「中学生」が多い。

表2-1 関係者（親族）の相談内容

	体調・精神不調	学校関係	子育て・発達	家庭環境	要保護・非行	その他	計
相談回数(延べ数)	12	21	13	2	3	10	61

表2-2 関係者（親族）相談における対象者の性別

	男	女	計
相談回数(延べ数)	46	15	61

表2-3 関係者（親族）相談における対象者の属性

	幼児	小学生	中学生	高校生	専門・大学生	その他・不明	計
相談回数(延べ数)	1	11	24	7	14	4	61

● 行政・学校・関係機関による相談

行政・学校・関係機関相談には、コンサルテーションや情報交換、ケース会議などが含まれる。全体の相談回数は前年度の13回から31回に増加した。相談内容では、精神疾患を抱える「体調・精神不調」、「学校関係」で連携が増加した。

表3 行政・学校・関係機関による相談の内容

	体調・精神不調	学校関係	子育て・発達	家庭環境	要保護・非行	その他	計
相談回数(延べ数)	13	6	0	1	3	8	31

2 親族里親サロン

平成24年から、宮城県東部児童相談所、東部児童相談所気仙沼支所、みやぎ里親支援センターけやきとの共催で、震災孤児を預かっている親族里親に対して、親族里親サロンを行っている。里親サロンは「安心してゆっくりとくつろいでお話しできる場所」を目指したものであり、そのなかでは子育てについての話など、同じ立場だからこそ分かち合える場所として利用されている。

今年は震災から8年が経過し、当時幼かった里子たちが成長し措置解除になるケースもあり、養育した当時からこれまでの思いを語り合い、参加者で共有することができた。

	回数	日時	参加者	スタッフ	場所
石巻	1	2018/5/25(金)	2	5	石巻市中央公民館
	2	2018/9/7(金)	3	5	石巻市体育館
	3	2019/2/20(水)	3	4	石巻市中央公民館
東松島	1	2018/7/5(木)	3	5	東松島市コミュニティセンター
	2	2018/10/25(木)	1	4	東松島市コミュニティセンター
気仙沼	1	2018/6/14(木)	1	5	本吉町公民館
	2	2018/9/20(木)	2	4	本吉町公民館
	3	2019/3/7(木)	1	5	本吉町公民館



3 遺児・孤児対象学習支援

小学生や中学生は、進級・進学で勉強の難易度が上がったり、クラブ活動等で帰宅が遅くなるなど、生活のスタイルが変化している。そのような環境の変化に適応しながら生活を送っている、震災遺児・孤児への学習の場の提供及び、学習支援、ひとり親や親族里親に対するレスパイトや大学生スタッフとの交流を目的として、“しゅくだい塾”を行った。

今年度から、「しゅくだい塾の記録」を準備し、しゅくだい塾の中で取り組んだことについて子ども達が各自記録をつけた。一日の活動の終わりに担当した大学生スタッフからのコメントを書いて渡し、家庭からのコメントも頂くことで、子ども達がどのように過ごしたかを共有することができた。

“夏休みしゅくだい塾in石巻”

2015年から毎年、石巻レインボーハウスにおいて“しゅくだい塾”をおこなっている。今年は子ども達や保護者の方からのリクエストを受け、「夏休み作文教室」を開催した。元教員のベテラン講師陣を迎え、短い時間ながらも丁寧に教えていただくことで、参加した子ども達は真剣に作文を書くことに向き合い、それぞれに最後まで取組み完成することができた。保護者の方々から好評いただいた。



開催日 2018年8月7日(火)～8月8日(水)

開催時間 8/7:11時～16時40分(50分1コマ×4、レクリエーション、休憩時間含む)
8/8:10時～15時40分(50分1コマ×4、レクリエーション、休憩時間含む)

開催場所 あしなが育英会石巻レインボーハウス

参加者 小学生19人、中学生1人(2日間延べ人数)

スタッフ 学生スタッフ10人、あしながスタッフ2人、S-チルスタッフ3人

協力団体 あしなが育英会東北事務所

※熱中症予防のため、水分補給に気を付け、朝始まりの会では体調チェックを行った。体調チェック後に、アイスブレイク(ちょっとしたゲーム)を行い、お楽しみ会では「風船渡し」ゲーム等を行った。



“夏休みしゅくだい塾in陸前高田”

陸前高田での“しゅくだい塾”は今年で3年目となる。今年度は学校等の行事と重なり、参加者が少なかったが、子ども達は学生と関わりレクリエーションと一緒に楽しんだり、勉強に取り組むことができた。

開催日 2018年8月2日(木)～8月4日(土)

開催時間 8/2:13時～17時50分(50分1コマ×4、レクリエーション、休憩時間含む)
8/3:10時～16時50分(50分1コマ×5、レクリエーション、休憩時間含む)
8/4:10時～12時30分(50分1コマ×2、レクリエーション、休憩時間含む)

開催場所 あしなが育英会陸前高田レインボーハウス

参加者 小学生3人、高校生6人(3日間延べ人数)

スタッフ 学生スタッフ6人、あしながスタッフ1人、S-チルスタッフ3人

協力団体 あしなが育英会東北事務所

※熱中症予防のため、水分補給に気を付け、朝始まりの会では体調チェックを行った。



“秋しゅくだい塾in石巻”

秋のしゅくだい塾は、初日に石巻市の防災行事と重なり、午前中に学校行事が行われていたため、午後から参加する子ども達が多かった。

開催日 2018年11月3日(土)～11月4日(日)

開催時間 11/3:11時～17時50分(50分1コマ×3、レクリエーション、休憩時間含む)
11/4:13時～16時30分(50分1コマ×3、レクリエーション、休憩時間含む)

開催場所 あしなが育英会石巻レインボーハウス

参加者 小学生9人、中学生1人(2日間延べ人数)

スタッフ 学生スタッフ8人、あしながスタッフ2人、S-チルスタッフ2人

協力団体 あしなが育英会東北事務所



1 研修

● 公益財団法人 みちのく未来基金

みちのく未来基金は、2011年9月に震災遺児孤児を対象とした、高校卒業後の進学のための学費支援を目的に発足した。遺児孤児と面接を行うスタッフを対象に研修を行った。

(2018年8月28日 加藤)

● セケ浜町震災後の乳幼児発達支援研修会

子どもの発達支援の理解を深め、子どもの健やかな成長を支援することを目的に、宮城県こども総合センタークリニック班所属の水本有紀医師に依頼し、セケ浜町役場職員・町内の保育所及び幼稚園職員を対象に「問題行動を呈する子どもの支援～発達障害を中心に～」研修を行った。

(2018年10月24日 押野 一條)

● 子どもの虐待防止推進全国フォーラムinみやぎ

被災地における子どもや家庭への支援(第4分科会)の座長を務めた。

(2018年10月28日 加藤)

● 厚真町社会福祉協議会職員への研修会

2018年9月6日に起きた北海道胆振東部地震を受けて支援者支援として、厚真町社会福祉協議会職員向けに「ストレスマネジメント」講話と「筋膜ケアのワークショップ」を行った。

(2018年3月28日 加藤 押野 一條)

2 関係機関との連絡会議

● 南三陸町子ども支援連絡調整会議

平成24年度から震災後の子ども達の心身と健全な発達の支援を目的とし、南三陸町保健福祉課の主催で「南三陸町子ども支援連絡調整会議」が行われてきた。S-チルでは、連絡調整会議の開始当初から運営協力を行ってきた。調整会議の実施によって、学校や保育所等、地域の乳幼児・児童・生徒関連施設と保健福祉課が情報交換し、相互連携を深めている。今年度は夏と冬の2回開催し、各施設から見えてくる子どもや子どもをとりまく状況を共有した。

(2018年8月1日、2019年1月30日)

3 心理士派遣事業

震災後、被災地支援を目的に子どもと保護者の心の健康をサポートするため、市町村の乳幼児健診に心理士が配置されてきた。震災から8年が経過し、一部市町村では予算的な問題等で配置が縮小されてきている。各市町村からの乳幼児健診の場面での心理士によるサポートが必要との声を受け、「S-チル」はニーズのある市町村に心理士を派遣する事業を開始した。今年度は南三陸町の乳幼児健診(1.6歳健診・発達相談)、セケ浜町では保育所・幼稚園巡回相談、発達相談、山元町では育児相談と保育所・幼稚園巡回相談を実施した。来年度も実施予定(南三陸町、セケ浜町)である。

	内容	日時	対応人数	場所
セケ浜町	発達相談	2018/6/19	2	セケ浜町母子保護センター
		2018/7/4	2	セケ浜町母子保護センター
		2018/8/3	2	セケ浜町母子保護センター
		2018/11/7	3	セケ浜町母子保護センター
		2019/2/20	2	セケ浜町母子保護センター
	巡回相談	2018/5/15	8	和光幼稚園
		2018/6/8	8	遠山幼稚園・保育園
		2018/6/11	9	汐見台幼稚園・保育園
		2018/6/20	4	遠山保育所
		2018/6/27	2	第二柏幼稚園
		2018/9/5	5	遠山保育所
		2018/9/21	12	汐見台幼稚園・保育園
		2018/9/28	1	第二柏幼稚園
		2018/10/9	8	遠山幼稚園・保育園
南三陸町	育児相談	2018/5/24	全体観察	志津川保育所
		2018/7/25	2	南三陸町総合ケアセンター健診室
		2018/10/23	3	入谷東幼稚園
		2018/12/11	2	戸倉保育所
		2019/2/12	4	戸倉保育所
	1歳半歳健診	2018/6/8	1	南三陸町総合ケアセンター健診室
		2018/9/19	3	南三陸町総合ケアセンター健診室
		2018/11/19	全体観察	南三陸町総合ケアセンター健診室
		2019/1/21	1	南三陸町総合ケアセンター健診室
		2019/3/1	2	南三陸町総合ケアセンター健診室
山元町	育児相談	2018/8/2	1	山元町母子保健センター
		2018/11/5	1	山元町母子保健センター
		2019/2/4	全体観察	山元町母子保健センター
	巡回相談	2018/10/15	2	ふじ幼稚園
		2018/10/30	1	やまもと幼稚園
		2018/11/18	3	つばめの杜保育園
		2019/3/1	3	つばめの杜保育園

● 心理士派遣事業の振り返り・次年度の打合せのため来室

セケ浜町健康増進課保健指導係
南三陸町保健福祉課健康増進係

(2019年1月4日)

(2019年3月5日)

1 震災子ども支援室主催によるシンポジウム・講演会

● プレシンポジウム

『公開研究報告会—若手による震災こころの支援研究』
「大規模災害における心理学的研究動向—子どもに焦点を当てて」

富田悠斗氏

「避難区域出身の青年が被災経験を乗り越えるプロセス—原発事故と福島県—」

春山尚美氏

「震災体験の語りを通して見られる喪失と人生の意味意識の検討」

更井智子氏

大学院生等の若手研究者による震災こころの支援研究を応援すべく、公開研究報告会を開催した。当日は、震災研究が支援とともにあることや震災研究を実施、継続する難しさ、研究として被災地の声を拾い発信する重要性について活発なディスカッションが行なわれた。

(2019年2月16日(土)東北大学文科系総合研究棟2階 参加者20名)

● 講演会

第10回震災子ども支援室公開講演会
「東日本大震災後の子どもたちへの支援」～8年間の診療と研究から見えるもの～

八木淳子氏

講演では、東日本大震災から今日までの間の臨床実践や被災地コホート調査研究の知見をもとにご報告をいただき、こころのケアの普遍的な課題に触れながら、今後の支援の在り方について参加者と共に検討する機会となった。

(2019年2月16日(土)東北大学文科系総合研究棟11階大会議室 参加者40名)



2 研修・講話・講演

● 南三陸町子育て支援センター

「子育て講話～乳幼児のこころのそだち～」をテーマに、南三陸町子育て支援センターにおいて講話を行なった。同センターを利用している0～3歳までの子どもを持つ保護者や保育士の方々、10名が参加した。
(2018年8月1日 加藤)

● 東北大学災害科学国際研究所災害と健康プロジェクトユニットにて講演

第4回東北大学災害科学研究拠点セミナー・第17回「災害と健康」学際研究推進セミナーにて「東日本大震災後の子ども支援—震災子ども支援室の取り組み—」というテーマで講演を行った。
(2018年10月17日 加藤 一條)

● 気仙沼市立鹿折中学校

「思春期とストレス」をテーマに、①思春期の気持ちの特徴、②自分で心の調子を整えること、他の人の力を借りること、③話を聞いてあげることの大事さ、④大学生の体験や中学生へのメッセージなどについて講話を行なった。
(2018年10月29日 加藤)

● 本学における震災への取り組みについての講話と被災地ツアー

先端教育実践センターと協力し、東北大学大学院教育学研究科国際シンポジウム登壇者への講話および被災地紹介を行った。
(2018年11月15日 加藤 一條)

● 摂南大学からの訪問グループへの講話

「東日本大震災後の子ども支援—震災子ども支援室の取り組み—」震災の子どもへの影響を知りたいという摂南大学からの訪問グループ(教員を目指す4名の学生と1名の教員)に対し、講話を行なった。
(2019年3月5日 加藤 一條 平井)

1 関連自治体・団体への訪問

2018年	4月16日	宮城県東部児童相談所	8月1日	マリンパル保育園
	4月20日	宮城県東部教育事務所	9月21日	宮城県東部児童相談所
		宮城県東部保健福祉事務所	10月1日	宮城県東部児童相談所
	5月2日	山元町役場保健福祉課	12月3日	あしなが育英会
		健康推進班		仙台レインボーハウス
	6月27日	七ヶ浜町健康増進課	2019年	3月28～29日
		保健指導係		北海道厚真町町民福祉課
	7月5日	あしなが育英会		健康推進グループ
		石巻レインボーハウス		厚真町社会福祉協議会

2 支援室来室対応・情報交換

2018年	5月7日	みちのく未来基金	8月28日	みちのく未来基金
	6月8日	あしなが育英会	10月24日	宮城県東部児童相談所
	6月29日	チャンス・フォー・チルドレン		

3 講演会・研修会における情報収集

2018年	5月8日	国立精神神経医療研究センター 情報支援センター主催	ストレス・災害時心の震災後の心理的回復ワークショップ	(一條出席)
	10月26日	みやぎ心のケアセンター主催	みやぎ心のケアフォーラム	(一條出席)
	11月28日	セーブ・ザ・チルドレンジャパン主催	子どもの貧困問題解決に向けたシンポジウム2018IN石巻	(一條出席)

1 学会発表

- 1 Reika ICHIJO・Michiyo KATO
"Support for Children after the Great East Japan Earthquake:
Trends and Characteristics in Consultations Conducted by the Support Office
for Children Affected by the Disaster"
16th WAIMH world congress in Rome May.26-30,2018
- 1 一條玲香・加藤道代
『震災後の電話相談における相談員の対応①—東北大学大学院教育学研究科
"震災子ども支援室"における相談記録の量的分析』
第37回日本心理臨床学会 2018年8月30日-9月2日 於:神戸国際展示場
- 3 加藤道代・一條玲香
『震災後の電話相談における相談員の対応②—東北大学大学院教育学研究科
"震災子ども支援室"における相談記録の内容分析』
第37回日本心理臨床学会 2018年8月30日-9月2日 於:神戸国際展示場
- 4 一條玲香・加藤道代
『震災遺児・孤児への学習支援を通じた学生の学びに関する研究』
第72回東北心理学会 2018年11月23-24日 於:岩手大学
- 5 一條玲香・加藤道代
『東日本大震災をきっかけに里親となった親族の養育』
第30回日本発達心理学会 2019年3月17-19日 於:早稲田大学

2 震災こころの支援研究会(D研)の活動

震災におけるメンタルヘルスや心理支援について考える研究会。平成30年度は17回の研究会を開催した。今年度は、昨年度から継続して震災こころの支援に関するレビュー研究とともに、教育学研究科から助成を受けて研究を実施した。これらの成果をもとに学会発表や公開研究報告会での発表をおこなった。

- 研究助成 教育学研究科先端教育実践センターによる大学院生プロジェクト型研究 15万円
テーマ:「原発避難と青年期の対人関係」
研究代表者:千葉柝作

● 学会発表

- 1 渡邊久留美・久我樹里佳・菅原朋・富田悠斗・千葉柝作
『大規模災害における心理学的研究動向—子供に焦点を当てて』
第72回東北心理学会 2018年11月23-24日 於:岩手大学
- 2 富田悠斗・塚越友子・関奏子・二本松直人・千葉柝作<自主シンポジウム>
『東日本大震災を学ぶ～当事者・実践者・研究者の視点から～』
第72回東北心理学会 2018年11月23-24日 於:岩手大学

3 研究調査協力

● 調査委員会委員長の委嘱

厚生労働省 平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業東日本大震災における「震災孤児等への支援に関する調査研究」検討委員会委員長

(2018年10月～2019年3月 加藤)

- 横浜市立大学学生への研究協力 (2018年12月5日)
- 石巻市立大谷地小学校 震災支援に関する生徒たちからの質問対応 (2019年3月8日)

1 報道関係・来室対応

2019年2月20日 NHK仙台放送局
3月5日 中日新聞(2019.3.10記事)

2 出版物・報告書

- 1 平成29年度
震災子ども支援室
"S-チル"年次報告書



- 2 震災里親家庭及び養育に
関する調査報告書(速報版)



- 3 東北大学オープンキャンパスに出展
(2018年7月31、8月1日)



- 4 セツ浜町心理士巡回相談アンケート

- 5 "S-チル"ニュースレターの作成と配布



- 6 ホームページの刷新、フェイスブック更新

- 7 震災子ども支援室各チラシの刷新・配布



2011年度から、これまで作成している各種報告書を、希望される方には郵送することが可能です。ご希望の冊子(複数可)、ご氏名、ご郵送先、ご所属をお書き添えの上、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

問い合わせ先

東北大学大学院教育学研究科 震災子ども支援室
〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1 E-mailアドレス s.children@sed.tohoku.ac.jp

編集者

加藤 道代 東北大学大学院教育学研究科教授
震災子ども支援室室長

平井 美弥 震災子ども支援室主任相談員

押野 晶子 震災子ども支援室相談員

大堀 和子 震災子ども支援室相談員

一條 玲香 震災子ども支援室学術研究員

平成30年度
東北大学大学院教育学研究科
震災子ども支援室“S-チル”
年次報告書

2019年6月1日

発行者 東北大学大学院教育学研究科 震災子ども支援室
代表者 加藤 道代
住 所 仙台市青葉区川内27-1
Tel/Fax 022-795-3263
E-mail s.children@sed.tohoku.ac.jp

